

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(かがやき特別支援学校)

1 目指す姿

<p>(1) 目指す学校の姿</p>	<p>医療及び福祉機関と連携した教育環境のもとで、子どもたちが学びあい、教育活動全体を通して学ぶ楽しさとわかる喜びを感じ、子どもたち自身が自分の願いや目標を達成できるよう指導・支援する学校</p> <p>○隣・併設する病院の多職種(医師、看護師、保育士、PT・OT・ST等)と連携した「チームかがやき」として、入院する児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育を推進する。</p> <p>○本・分校3校が連携し、県内の特別支援学校のセンター的機能を牽引するセンターオブセンターとして、本県の病弱教育、肢体不自由教育及び発達障がい支援を推進する。</p>
<p>(2)</p>	<p>育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)</p> <p>○思いやりと優しい気持ちをもち、自他のいのちを大切に子ども</p> <p>○確かな学力と社会性を身につけ、生活の中で生かそうとする子ども</p> <p>○友だちと助け合い、知恵を合わせて課題を解決しようとする子ども</p> <p>【緑ヶ丘校】一人ひとりに応じた健康的な生活や自分らしさを大切にし、確かな学力を身につけ、自信と希望をもって地域に戻ることができる児童生徒を育てる。</p> <p>【草の実校】一人ひとりの心身の発達に応じた学力・コミュニケーション能力や豊かな人間性を身につけ、積極的に社会参加することができる児童生徒を育てる。</p> <p>【あすなる校】一人ひとりに応じた学び方や対人関係の築き方を身につけ、確かな学力と自信をもって生活を送ることができる児童生徒を育てる。</p>
<p>(2)</p>	<p>ありたい教職員の姿</p> <p>○隣・併設する病院と緊密に連携し、病弱教育、肢体不自由教育及び発達障がい支援の専門的な知識を有するとともに、入院する児童生徒の想いに共感し、寄り添う姿勢で、授業改善に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○本県の病弱教育、肢体不自由教育及び発達障がい支援の中核となる学校の教員として、同僚や関係機関との協働を通して自らのキャリアアップに努めている。</p> <p>○特別支援学校の教職員として、子どもたち一人ひとりの実態に応じた指導・支援を誠実・丁寧に進めることで児童生徒及び保護者・関係者からの信頼に応えるとともに、高い人権意識と共感的な態度で真摯に教育活動に取り組んでいる。</p>

2 現状認識

<p>(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待</p>	<p><児童生徒></p> <p>○毎日元気に登校し、学習や体験活動を通して楽しい学校生活を送りたいと願っている。</p> <p>○学力の保障や前籍校への復籍、社会参加につながる技能・知識の習得を望んでいる。</p> <p><保護者></p> <p>○退院後の復籍、進学に向けて、児童生徒の実態に合わせた丁寧な指導が行われることを望んでいる。</p> <p>○児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育が行われ、自己実現と社会参加につながる技能・知識を習得し、個々に応じた進路が保障されることを望んでいる。</p> <p><前籍校></p> <p>○支援情報の共有や具体的な助言等の支援によるスムーズな復籍を期待している。</p>	
<p>(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待</p>	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者></p> <p>○復学時等に学習進度で遅れないこと</p> <p><前籍校></p> <p>○治療後の円滑な復籍</p> <p><病院></p> <p>○治療に有効に寄与する学校生活の充実と情報共有</p> <p>○支援の共通理解、役割分担の明確化</p> <p><関係者機関></p> <p>○退院後、地域での生活にスムーズ移行するうえで必要となる情報の共有</p> <p>○卒業後の生活を見越した密接な連携と生徒の情報提供</p> <p>○生徒の基本的な生活習慣の確立と保護者の協力</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者></p> <p>○見守りや教育活動に対する理解と協力</p> <p><前籍校></p> <p>○支援情報の共有</p> <p><病院></p> <p>○医療情報等の共有と密接な連携</p> <p>○教育環境・内容の充実に係る理解と協力</p> <p><関係者機関></p> <p>○退院後、地域生活を支えるうえで必要となる支援の情報提供と役割の分担</p> <p>○卒業後の進路及び生活に係る情報提供と支援</p> <p>○就労についての理解と就業体験の機会の増加</p>

<p>(3) 前年度の学校関係者評価など</p>	<p>○センターオブセンターとしての役割 動画で学校の取組を紹介したことは理解が深まり非常に有益であった。学校としての熱意や自信も伝わった。あすなる校について、発達障がいに関しては地域の学校間で理解の差が大きい。基本的な支援が不足しているケースもあるため、全体的な支援の質の向上を目指してほしい。また、小学校で増加している暴力対応において強みを活かし、枠組みづくりや啓発を進めてほしい。</p> <p>○復籍後・退院後のアフターフォロー 「復籍後のアフターフォローは重要」という点に賛同する。復籍後に課題が生じた場合、どのような支援が可能か具体的な対応策を検討してほしい。退院後に不登校となるケースがあり、適応の難しさが課題である。より積極的にフォローアップを行い、支援が必要と見込まれる児童生徒の早期評価を進めてほしい。</p> <p>○学校生活アンケートの回収率と課題把握 保護者・児童生徒学校生活アンケートの回収人数が少ない理由を明確にし、改善策を検討する必要がある。満足度の高い層の回答が集まりやすいため、より多様な意見を収集できるように、回収率向上の工夫を求めたい。</p> <p>○生成 AI の活用と個人情報保護 生成 AI の活用が特定教職員に依存していないか懸念がある。生成 AI を活用する際は、個人情報保護の観点から慎重な運用が求められる。</p> <p>○時間外勤務縮減と教育の質の担保 デジタル化や業務効率化により時間外勤務が削減されている点は評価できる。一方で、児童生徒と向き合う時間の減少や教育の質の低下を招かないよう、質の維持・向上に引き続き努めてほしい。</p> <p>○デジタル活用・情報共有・ICT による負担軽減 デジタル活用による業務効率化は大きく進んでおり、評価できる。電話連絡は時間外勤務につながりやすいため、Teams など ICT ツールを活用した連絡体制を一層推進してほしい。</p>				
<p>(4) 現状と課題</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="279 1048 438 1305"> <p>教育活動</p> </td> <td data-bbox="438 1048 1444 1305"> <p>○一人ひとりの児童生徒の病状や学習状況、進路状況が様々であることから、多様な教育的ニーズに応えるために丁寧な実態把握と柔軟な対応を行う必要がある。</p> <p>○児童生徒の前籍校へのスムーズな復籍に向けて、復籍支援パンフレット等を活用するなど前籍校との連携をさらに丁寧に進め、細やかな支援を行う必要がある。</p> <p>○病院と連携した「チームかがやき」としての支援体制のもと、教育相談等の地域支援、「かがやき講座」等による研修支援、学校ホームページ等において医療と連携した先進的な情報の積極的な発信等に努めるセンターオブセンター機能を発揮する必要がある。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="279 1305 438 1552"> <p>学校運営等</p> </td> <td data-bbox="438 1305 1444 1552"> <p>○学校における不祥事防止に向け、「信頼される学校であるための行動計画」に基づく取組を継続する。「学校信頼向上委員会」の運営やコンプライアンス研修等を通して、全教職員のコンプライアンス意識を向上する必要がある。</p> <p>○教職員が自ら学び、生き生きと業務に取り組むことで自己の力を十分に発揮するとともに、助け合いながら業務を行うことで達成感や充実感を共有できる風通しの良い職場環境づくりを進め、働きがいを実感できることで職員満足度の向上を図る必要がある。あわせて、効率的・合理的な校務運営に努め、時間外労働時間の削減につなげる必要がある。</p> </td> </tr> </table>	<p>教育活動</p>	<p>○一人ひとりの児童生徒の病状や学習状況、進路状況が様々であることから、多様な教育的ニーズに応えるために丁寧な実態把握と柔軟な対応を行う必要がある。</p> <p>○児童生徒の前籍校へのスムーズな復籍に向けて、復籍支援パンフレット等を活用するなど前籍校との連携をさらに丁寧に進め、細やかな支援を行う必要がある。</p> <p>○病院と連携した「チームかがやき」としての支援体制のもと、教育相談等の地域支援、「かがやき講座」等による研修支援、学校ホームページ等において医療と連携した先進的な情報の積極的な発信等に努めるセンターオブセンター機能を発揮する必要がある。</p>	<p>学校運営等</p>	<p>○学校における不祥事防止に向け、「信頼される学校であるための行動計画」に基づく取組を継続する。「学校信頼向上委員会」の運営やコンプライアンス研修等を通して、全教職員のコンプライアンス意識を向上する必要がある。</p> <p>○教職員が自ら学び、生き生きと業務に取り組むことで自己の力を十分に発揮するとともに、助け合いながら業務を行うことで達成感や充実感を共有できる風通しの良い職場環境づくりを進め、働きがいを実感できることで職員満足度の向上を図る必要がある。あわせて、効率的・合理的な校務運営に努め、時間外労働時間の削減につなげる必要がある。</p>
<p>教育活動</p>	<p>○一人ひとりの児童生徒の病状や学習状況、進路状況が様々であることから、多様な教育的ニーズに応えるために丁寧な実態把握と柔軟な対応を行う必要がある。</p> <p>○児童生徒の前籍校へのスムーズな復籍に向けて、復籍支援パンフレット等を活用するなど前籍校との連携をさらに丁寧に進め、細やかな支援を行う必要がある。</p> <p>○病院と連携した「チームかがやき」としての支援体制のもと、教育相談等の地域支援、「かがやき講座」等による研修支援、学校ホームページ等において医療と連携した先進的な情報の積極的な発信等に努めるセンターオブセンター機能を発揮する必要がある。</p>				
<p>学校運営等</p>	<p>○学校における不祥事防止に向け、「信頼される学校であるための行動計画」に基づく取組を継続する。「学校信頼向上委員会」の運営やコンプライアンス研修等を通して、全教職員のコンプライアンス意識を向上する必要がある。</p> <p>○教職員が自ら学び、生き生きと業務に取り組むことで自己の力を十分に発揮するとともに、助け合いながら業務を行うことで達成感や充実感を共有できる風通しの良い職場環境づくりを進め、働きがいを実感できることで職員満足度の向上を図る必要がある。あわせて、効率的・合理的な校務運営に努め、時間外労働時間の削減につなげる必要がある。</p>				

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<p>○多様な教育的ニーズへの対応</p> <p>【3校共通】児童生徒一人ひとりの病状や学習状況を転入時に丁寧に把握し、病院に入院する児童生徒であるという背景、個々の病状や心情を十分に理解したうえで、病院や前籍校と緊密に連携し、個別の指導計画に基づく児童生徒の想いに寄り添った教育活動を行い、復籍を見据えた丁寧な支援を進める。</p> <p>【緑ヶ丘校】児童生徒一人ひとりの前籍校での授業進度を確認しながら学力保障を着実に進めるとともに、復籍を見据えた丁寧な支援を進める。</p> <p>【草の実校】肢体不自由のある児童生徒の発達段階を踏まえた系統的な教育について研究し、ICT機器の活用を含め、実践につなげる。</p> <p>【あすなる校】発達障がいの特性に応じた指導を教職員が統一感を持って、丁寧に進めるとともに、復籍を見据えた丁寧な支援を進める。</p> <p>○前籍校への復籍支援</p>
-------------	--

	<p>【緑ヶ丘校】入院期間が多様な中、病院や前籍校等と入院直後から緊密に連携して、児童生徒や保護者の安心感につながる復籍支援を進める。</p> <p>【草の実校】病院や前籍校等と緊密に連携して、児童生徒一人ひとりに応じた支援情報の引継ぎを着実にを行い、円滑な復籍支援を進める。</p> <p>【あすなろ校】病院や前籍校等と緊密に連携して、児童生徒一人ひとりに応じた支援情報の引継ぎを着実にを行い、円滑な復籍や進学につながる支援を進めるとともに、退院後の児童生徒の状況把握およびアフターフォローに努める。</p> <p>○センターオブセンター機能の発揮</p> <p>【緑ヶ丘校】病院との連携のもとで病弱教育に係る情報発信に努めるとともに、高等学校への発達障がい支援の充実を図る。</p> <p>【草の実校】病院と連携した支援の充実や情報の発信等により、県内の小中学校等の肢体不自由のある児童生徒に向けた支援の充実を図る。</p> <p>【あすなろ校】医療センターと連携した発達障がい支援の拠点として、県内の特別支援学校との協働により小中学校等への支援の充実を図る。</p>
<p>学校運営等</p>	<p>○コンプライアンスの徹底【3校共通】</p> <p>「学校信頼向上委員会」を定期的開催し、不祥事防止の取組を計画的に進めるとともに、「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」を定期的実施する。また、コンプライアンス研修を実施し、教職員全員がコンプライアンスの徹底を日常的に意識できる取組を進める。</p> <p>○働きやすい職場環境づくり【3校共通】</p> <p>教職員が働きがいを実感し、達成感や充実感を共有できる職場環境づくりを進める中で職員満足度の向上を図るとともに、教育実習や介護等体験、学生ボランティア等の積極的な受け入れ等によって地域資源の活用に着目した教職員の意識の活性化を図り、あわせて人材育成の場とする。また、校務運営の一層の効率化を図ることで時間外労働時間の削減につなげる。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>多様な教育的ニーズへの対応</p>	<p>【3校共通】 児童生徒の授業進度や病状等の特性、心情を考慮した教育を推進する</p> <p>【緑ヶ丘校】 児童生徒が学習空白を感じることなく円滑に復籍できる指導・支援を行う。</p> <p>【草の実校】 丁寧な実態把握に基づいて個別の指導計画を作成し、児童生徒の発達段階や身体状況に即した系統的な指導を進める。</p> <p>【あすなろ校】 個別の指導計画に基づく統一感のある指導によって、児童生徒の安定した学校生活につなげる。</p> <p><活動指標>医療との連携会議の開催数:各校月1回 <成果指標>児童生徒及び保護者対象の「学校生活アンケート」結果に「本校の教育支援に満足している」と回答した割合:90%以上</p>	<p>(年度末に記載)</p>	<p>◎</p>

前籍校への復籍支援	<p>【緑ヶ丘校】 前籍校へのスムーズな復籍に向け、復籍支援パンフレットを活用した病弱児に対する理解啓発を促進する。</p> <p>【草の実校】 支援のポイント等を伝え、教材・教具を指導方法とセットで前籍校に提案することでスムーズな復籍につなげる。</p> <p>【あすなろ校】 児童生徒の特性や学習状況、支援のポイントを前籍校へ伝えるとともに、教科指導等で活用している教材を提供し、よりスムーズな復籍につなげるとともに、必要に応じてアフターフォローを行う。</p> <p><活動指標> 復籍に向けた前籍校教職員との情報共有を行う:100%</p> <p><成果指標> 復籍に向けた前籍校への段階的参加(一部参加・全面参加等)の達成度:100%</p>	(年度末に記載)	◎
センターオプセンター機能の発揮	<p>【緑ヶ丘校】 ○高等学校への発達障がい支援に係る取組を推進する。 <活動指標> 発達障がい支援情報交換会への出席:3回以上 <成果指標> 高等学校からの発達障がい支援等に関する相談件数:年10件以上</p> <p>【草の実校】 ○病院の専門家と連携し、小中学校等への支援に取り組む。 ○重複学級における教科指導の実践について事例を発信する。 <活動指標> ホームページに掲載する実践事例件数:年2件 <成果指標> 小中学校の肢体不自由特別支援学級等からの相談件数:年10件以上</p> <p>【あすなろ校】 ○医療センター及び県立特別支援学校と連携し、小中学校に在籍する発達障がいのある児童生徒への支援を充実する。 ○小中学校等の教員を対象とした発達障がい支援に係る各種研修を実施する。 <活動指標> 小中学校等への発達障がいに係る支援を行ったのべ数:50回以上 <成果指標> 授業実践報告会への小中学校教員及び県立特別支援学校コーディネーター等の参加者総計:150人以上</p>	(年度末に記載)	
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
コンプライアンスの徹底	<p>【3校共通】 ○「学校信頼向上委員会」の定期的な開催及び「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」の活用やコンプライアンス研修を実施することで、教職員のコンプライアンス意識の徹底を図る。</p> <p><活動指標> コンプライアンス研修の実施:年2回 セルフチェックリストに基づく注意喚起:毎学期</p> <p><成果指標> コンプライアンス研修に参加し理解が深まった</p>	(年度末に記載)	◎

	と回答した教職員の割合:80%以上		
働きやすい職場環境づくり・働き方改革の推進	<p>【3校共通】 教職員全体の業務内容を見直し、生き生きと仕事ができる環境づくりに取り組む。</p> <p><活動指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○設定した日の定時に退校できた教職員の割合:80%以上 ○放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合:90%以上 ○保護者への調査・アンケートの電子化:100% ○高ストレス者に対する産業医等による面談実施率:100% ○ストレスチェックの結果に基づく職場環境改善策の策定・実施:1つ以上 ○教職員が希望する外部研修への参加:希望する教職員年1回以上 <p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数:0人 ○時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数:0人 ○1人当たりの月平均時間外在校等時間:15時間以下 ○1人当たりの年間休暇取得日数:15日以上 ○高ストレス者と判定された職員の割合:9%未満 ○「教職員満足度アンケート」で「過度の精神的不安や負担を感じることなく仕事をすすめることができる」と回答する職員の割合:70%以上 ○「教職員満足度アンケート」で「日々の仕事にやりがいを感じ生き生きしている」と回答する教職員の割合:70%以上 	(年度末に記載)	
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)